

国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」(JEM)に係る 安全の確保に関する調査審議について(案)

平成 19 年 1 月 24 日
宇宙開発委員会

1. 調査審議の趣旨

宇宙開発委員会においては、国際宇宙ステーションの日本の実験棟「きぼう」(JEM)の安全確保を図るため、平成 8 年 4 月に「宇宙ステーション取付型実験モジュールに係る安全評価のための基本指針」(以下「基本指針」という。)をとりまとめ、これに基づき「きぼう」の開発及び運用に係る安全評価を行っているところである。

平成 18 年度には、独立行政法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)において、次項に示す「きぼう」の構成要素の開発を概ね完了し、安全審査を終了したところであり、これらの安全の確保について、「基本指針」に基づく調査審議が必要である。このため、安全部会において次のとおり調査審議を行う。

2. 調査審議の対象

- (1) 衛星間通信装置(ICS)
- (2) ロボットアームのバックアップドライブシステム(BDS)
- (3) HTV 近傍域通信システム(PROX)
- (4) 細胞培養実験ラック(SAIBO)
- (5) 流体実験ラック(RYUTAI)

3. 調査審議の観点

「基本指針」に照らして、以下の観点から、安全対策の妥当性について調査審議を行う。

- (1) 安全評価対象に対する JAXA の安全確保の考え方、安全審査プロセス、課題抽出の手法等が妥当であるか。
- (2) 上記の観点に基づき、JAXA が実施した安全審査プロセスの中で抽出された課題の対処の方向性が妥当であるか。

4. 日程

調査審議の結果は、2 月中を目途に宇宙開発委員会に報告するものとする。

5. 安全部会の構成員

本調査審議に係る安全部会の構成員は、別紙のとおり。

6. その他

「(会議の公開)第 13 条 本委員会及び部会の議事、会議資料及び議事録は、公開する。ただし、特段の事情がある場合には、事前に理由を公表した上で非公開とすることができる。」(宇宙開発委員会の運営等について 平成 13 年 1 月 10 日宇宙開発委員会決定)に従い、安全部会は、原則として公開とし、特段の事情がある場合には非公開とすることとする。

(別紙)

宇宙開発委員会 安全部会構成員

(委員)

部会長	池上徹彦	宇宙開発委員会委員
部会長代理	青江 茂	宇宙開発委員会委員長代理
	森尾 稔	宇宙開発委員会委員(非常勤)

(特別委員)

工藤 勲	北海道大学名誉教授
熊谷 博	独立行政法人情報通信研究機構電磁波計測研究センターセンター長
栗林忠男	東洋英和女学院大学国際社会学部教授
河野通方	国立大学法人東京大学大学院工学系研究科教授
佐藤吉信	国立大学法人東京海洋大学海洋工学部教授
竹ヶ原春貴	公立大学法人首都大学東京大学院システムデザイン研究科教授
中村 順	警察庁科学警察研究所爆発研究室室長
花田俊也	国立大学法人九州大学大学院工学研究院助教授
雛田元紀	宇宙科学研究所名誉教授
藤原修三	独立行政法人産業技術総合研究所爆発安全研究センターセンター長
馬嶋秀行	国立大学法人鹿児島大学大学院医歯学総合研究科教授
松尾亜紀子	慶應義塾大学理工学部助教授
宮本 晃	日本大学大学院総合社会情報研究科教授